

達第二百三號

大東亞戰爭中捕獲セル和蘭國監視艇「ハルク」ヲ左ノ通命名ス

昭和十八年九月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第四百四號哨戒艇

達第二百四號

大東亞戰爭中捕獲セル米國巡邏艇「アラヤット」ヲ左ノ通命名ス

昭和十八年九月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第四百五號哨戒艇

達第二百五號

大東亞戰爭中捕獲セル和蘭國驅潛艇「ソインタム」ヲ左ノ通命名ス

昭和十八年九月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第四百十七號驅潛特務艇

達

四六五

0548

達第二百六號

大東亞戰爭中捕獲セル和蘭國魚雷艇(第百二工作部保管)ヲ左ノ通命名ス

昭和十八年九月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第百十八號魚雷艇

達第二百七號

海軍依託學生生徒採用委員左ノ通定ム

昭和十八年九月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

藥劑科	軍醫科	科別	海軍依託學生生徒採用委員
採用試験常任委員			
人事局局員 二、醫務局局員 二、教育局局員 一			

0549

記事	主計科	人事局第一課長	人事局局員 二、經理局局員 一、醫務局局員 二、教育局局員 一
	技術科	教育局第一課長	人事局局員 二、軍需局局員 一、艦政本部局員 一、航空本部局員 一、施設本部局員 一、醫務局局員 一、教育局局員 一
	齒科醫科		人事局局員 二、醫務局局員 三、教育局局員 一
	法務科		人事局局員 二、法務局局員 一、醫務局局員 一、教育局局員 一
	採用試験臨時委員	ハ共ノ都度之ヲ命ズ	

達第二百八號

海軍艦政本部處務規程中左ノ通改正ス

昭和十八年九月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第十一條第二號中「機銃部」ノ上ニ「指揮兵器部」ヲ加フ

(諸例則卷一、一二〇頁参照)

達第二百九號

昭和十七年達第二百九十六號表中横須賀海軍經理部名古屋支部ノ項各部ノ欄中「名古屋在勤海軍武

達

四六七

0550

達

四六八

官府、「」ノ下ニ「横須賀海軍施設部名古屋支部、」ヲ加フ

本達ハ昭和十八年八月十八日ヨリ之ヲ適用ス

昭和十八年九月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

(参照) 前記達號ハ横須賀海軍經理部支部ノ分掌スル所在地各部指定ノ件ナリ

○正誤

③

本年達第百七十七號海軍文官身上取扱規則改正中四二一頁二行目「文官優遇事由書」ハ「文官優遇理由書」ノ誤

0551

達第二百十號

燃料經理規程中左ノ通改正ス

昭和十八年九月三日

海軍大臣 嶋田繁太郎

別表第一中航空揮發油ノ部中航空九一揮發油ノ項ノ次ニ左ノ項ヲ加フ

航空九二揮發油

空九二揮

A 九二 G

(會計法規類集四卷二五三頁及經營需品燃料取扱例規二九九頁參照)

達第二百十一號

燃料試驗規格中左ノ通改正ス

昭和十八年九月三日

海軍大臣 嶋田繁太郎

航空九一揮發油ノ規格ノ次ニ航空九二揮發油ノ規格ヲ左ノ如ク加フ

達

四六九

0552

達

航空九二揮發油

左ノ外航空八五揮發油ニ同シ

二、「オクタン」價(試験法第二八號) 九二以上

六、四「エチル」鉛(試験法第二五號) 容量ニテ〇・一%以下

四七〇

0553

達第二百十二號(所要ノ向ニ配付ス)

達第二百十三號

昭和十八年九月六日

海軍大臣 嶋田繁太郎

大東亞戰爭中雇員傭人規則第十八條ノ規定ニ拘ラズ陸上部隊ニ在リテハ電話手ニ女子ヲ使用スルコトヲ得

達第二百十四號

雇員傭人規則中左ノ通改正ス

昭和十八年九月六日

海軍大臣 嶋田繁太郎

附表第二中運轉士ノ項勤務應ノ欄(ロ)ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ艦船部隊ヲ除ク

同表中運轉手ノ項勤務應ノ欄ニ「防備隊、通信隊、警備隊、航空隊」ヲ、電話手ノ項勤務應ノ欄ニ「海兵團、防備隊、通信隊、警備隊、航空隊」ヲ加フ

達

四七三

0554

達

達第二百十五號

海軍給與今施行細則第七十條中第二項ヲ削ル

昭和十八年九月六日

海軍大臣 嶋田繁太郎

四七四

○正誤

達第二百號中「第二行」トアルハ「第二表」ノ誤

④

0555

達第二百十六號

海軍軍需部處務規程中左ノ通改正ス

昭和十八年九月七日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第九條ノ四表中

横須賀海軍軍需部	燃料、行動用消耗品ノ保管及供給ニ關スル事項	ラ
四日市支隊	燃料、行動用消耗品(一般用潤滑油、糸屑及古綿布共)及糧食ノ保管及供給ニ關スル事項	ニ改ム
吳海軍軍需部		
徳山支隊	燃料、行動用消耗品(一般用潤滑油、糸屑及古綿布共)及糧食ノ保管及供給ニ關スル事項	ニ改ム
吳海軍軍需部		
佐伯支隊	燃料、行動用消耗品(一般用潤滑油、糸屑及古綿布共)及糧食ノ保管及供給ニ關スル事項	ニ改ム

(諸例則卷一、二一九頁参照)

達

四七五

0556

達第二百十七號

昭和四年達第百六號中左ノ通改正ス

昭和十八年九月七日

海軍大臣 嶋田繁太郎

機關日誌(甲、乙)、機關月報(甲、乙)、機關月報摘要(甲、乙)ノ様式ヲ各別冊ノ通、主蓄電池
記錄様式第五ノ様式ヲ別紙ノ通改ム

附則

本達ハ昭和十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ従前ノ機關日誌(甲、乙)、機關月報(甲、乙)、
機關月報摘要(甲、乙)及主蓄電池記錄様式第五ノ用紙ハ在庫品ノ存スル限り之ヲ訂正シ使用スル
コトヲ得

参照 昭和四年達第百六號ハ機關日誌(甲、乙)、機關月報(甲、乙)、機關月報摘要(甲、乙)、機關運轉記錄、機關室當直記錄
及主蓄電池記錄制定ノ件ナリ

達第二百十八號

機關日誌、機關月報、機關月報摘要取扱及記註心得左ノ通改正ス

0557

昭和十八年九月七日

海軍大臣 嶋田繁太郎

機關日誌、機關月報、機關月報摘要取扱及記註心得

第一章 取扱心得

第一條 機關日誌、機關月報及機關月報摘要ハ艦艇ニ備ヘ機關ニ關スル事項ヲ記錄シ他日ノ參考及考證ニ資スベキモノトス

第二條 機關日誌、機關月報及機關月報摘要ハ各甲、乙ニ區別シ甲ハ潜水艦以外ノ艦艇ニ、乙ハ潜水艦ニ之ヲ適用ス

第三條 機關日誌ニハ検査記録(様式適宜)ヲ、同(甲)ニハ機關運轉記録(蒸氣機關用又ハ内火機關用)ヲ、同(乙)ニハ機關室當直記録及主蓄電池記録ヲ附屬ス

第四條 検査記録ハ各部毎ニ船體、兵器及機關ノ検査、修理及試験ノ都度其ノ理由、狀況、處置、所要工數、前回検査シタル期日、現狀等ヲ記錄シ機關日誌記註ノ資料タラシムルモノニシテ使用済後ハ便宜焼却スルモノトス

機關運轉記録ハ一連ノ主機械毎ニ記註シ月別ニ取纏メ該當機關日誌ヲ艦艇内ニ保管スル期間之ヲ

達

四七七

0558

保管シ爾後便宜焼却スルモノトス

機關室當直記録ハ常ニ機關室ニ備ヘ機關ニ關スル一切ノ事項ヲ記録シ機關日誌記註ノ資料タラシムルモノニシテ該當機關日誌ヲ艦艇内ニ保管スル期間之ヲ保管シ爾後便宜焼却スルモノトス

主蓄電池記録ハ主蓄電池裝備(基板換裝)後基板換裝迄ヲ一期トシ記註シ機關日誌記註ノ資料タラシムルモノニシテ基板換裝後海軍潜水學校ニ送付スルモノトス

第二項ノ一連ノ主機械トハ蒸氣機關ニ在リテハ操縦弁ヨリ主復水器迄ヲ、内火機關ニ在リテハ一臺ノ主機械及之ニ關聯スル總テノ補助裝置ヲ謂フ

第五條 機關日誌、機關月報及機關月報摘要ノ記註ハ艦艇乗員始メテ任命セラレシトキヨリ始メ艦艇籍ヨリ除カルル迄之ヲ繼續スルモノトシ豫備艦艇ニシテ定員ヲ置カレザル場合ニハ之ヲ記註セザルコトヲ得

第六條 機關日誌、機關月報及機關月報摘要ハ毎月月頭ヨリ月末迄ヲ一期トシ記註スルモノトス

第七條 機關日誌中機關科當直將校氏名欄ニハ機關科當直將校當直ノ終ニ於テ其ノ氏名ヲ自署スベシ但シ艦船職員服務規程第八十七條ノ規定ニ依リ機關科當直將校ノ勤務ニ服スル者ハ當直ノ終ニ於テ監視ニ當ル佐尉官又ハ特務士官ノ署名ヲ求ムベシ

0559

第八條 機關長（除機關長）ハ毎日（毎土曜日）機關日誌ヲ調査シ之ニ捺印スベシ若シ誤謬、脱漏等アルヲ認メタルトキハ當時ノ機關科當直將校ヲシテ之ヲ修正セシムルモノトス

第九條 艦長（司令）ハ毎土曜日機關日誌ヲ査閲シ之ニ捺印スベシ

第十條 艦長（司令）ハ機關月報及機關月報摘要各一通ヲ調製シ毎月五日以内ニ機關月報ハ所屬長官ニ、機關月報摘要ハ直接海軍大臣ニ進達スベシ艦隊及警備府ハ機關月報ヲ其ノ艦艇ノ本籍鎮守府ニ移牒スルモノトス

第十一條 機關日誌ハ二年間艦艇ニ於テ、其ノ後一年間所屬鎮守府ニ於テ之ヲ保存スルモノトス
驅逐艦、潜水艦、海防艦、水雷艇、掃海艇、驅潛艇、哨戒艇等ノ小艦艇ニ在リテハ二年以内ト雖モ便宜所屬ノ鎮守府又ハ警備府ニ於テ保存スルコトヲ得

艦艇籍ヨリ除カレタルモノノ機關日誌ハ當該艦艇ノ所屬鎮守府ニ於テ一年間之ヲ保存スルモノトス
機關月報ハ所屬鎮守府、機關月報摘要ハ海軍省ニ於テ各五年間之ヲ保存シ爾後之ヲ燒却スルモノトス

第十二條 前諸條ノ規定ハ之ヲ特務艦、特設軍艦及特設特務艦ニ之ヲ準用ス

達

四七九

0560

第二章 記註心得

第一節 一般心得

第十三條 數量、時間、月日等ヲ數字ヲ以テ表記スルニハ縦欄内ニ在リテハ日本數字ヲ、横欄内ニ在リテハ亞刺比亞數字ヲ用ヒ單位ハ(・)符、千位ハ(、又ハ、)符、月日時分ハ(―月―日―時―分)ヲ以テ區分スルモノトス

第十四條 計算上ノ數量ヲ記スルニ當リ小數ハ左ノ區分ニ依リ四捨五入スルヲ例トス

排水量、馬力、燃料 (立又ハ瓦單位ノトキ)

外部潤滑油、電壓

電流、溫度、發動シリンダ内最大壓力

推進軸平均毎分回轉數、主機械平均毎分回轉數

蒸氣ガス壓力、發動シリンダ内有効壓力

速力、航程、燃料 (機關日誌甲ノミ)

内部潤滑油、燃燒度

(石炭專燒又ハ混燒ノ場合火床ニ平方米ニ對スル毎時燃料費額)

水

單位ニ止ム

小數一位ニ止ム

0561

燃料一匁（又ハ千立）ニ對スル航續距離

毎時毎馬力ニ對スル燃料費額（内火機械ノ場合ヲ除ク）

燃料（機關日誌中ノミ）

燃燒度（重油專燒ノ場合受熱面一平
方米ニ對スル毎時燃料費額）

蓄電器電壓

推進軸回轉數ニ對スル主機械回轉數比

毎時毎馬力ニ對スル燃料費額（内火機械）

蒸氣シリンダ恒數

發動シリンダ恒數

小數二位ニ止ム

小數三位ニ止ム

小數五位ニ止ム

第十五條 各種單位ハ佛式度量衡ヲ以テ表スベキモノトス但シ裝備計器ノ單位英式度量衡ナルモノ

ニ在リテハ英式度量衡單位ヲ以テ記入スルコトヲ得

第十六條 燃料ノ費額ヲ記スルニ際シ其種類ヲ區別スルヲ要スルトキハ數字ノ右肩ニ B₀（海軍煉
炭）、B₁（一號煉炭）、B₂（二號煉炭）、C₁（一號塊炭）、C₂（二號塊炭）、C₃（三號塊炭）、I₀（罐
用重油）、I₁（一號重油）、I₂（二號重油）、I₃（三號重油）、G₁（一號普通揮發油）、G₂（二號普

達

0562

通揮發油)、P。(二號石油)、K(輕油)等ノ記號ヲ小記スベシ

第十七條 燃料ニ關スル記錄中※印ヲ附シタル欄内ニハ使用燃料ヲ重油ニ換算セルモノヲ記入スベシ但シ罐ニ於ケル過半力量ガ混燒罐又ハ石炭專燒罐ニ依リ發生セラレルモノニ在リテハ使用燃料ハ總テ海軍煉炭ニ換算スルモノトス

第十八條 各種ノ燃料費額ヲ重油又ハ海軍煉炭ノ量ニ換算スルニハ其ノ燃料種別ニ依リ左ノ燃料換算係數ヲ乘ズルモノトス

重油	一・〇〇	一・四七
海軍煉炭	〇・六八	一・〇〇
一號煉炭	〇・六八	一・〇〇
一號塊炭	〇・六八	一・〇〇
二號煉炭	〇・五九	〇・八六
二號塊炭	〇・五六	〇・八三
三號塊炭	〇・四五	〇・六六

第二節 機關日誌役務及編制表ノ部

0563

第十九條 役務欄ニハ當年度間ノ役務ヲ記入スルモノトス

第二十條 准士官以上ノ兼務ハ官名欄内ニ括弧ニテ其ノ旨附記スベシ

第二十一條 分擔分掌ノ欄ニハ月末ニ於ケル受持ヲ記入シ當月中ニ之ガ變更アリタルトキハ舊配置ヲ括弧ニテ同野内ニ記入スベシ

第二十二條 准士官以上ニ在リテハ當月間ニ在艦、(艇)セシ者ヲ記入シ總テ現員ノ欄内ニハ月末ニ於ケル員數ヲ記入スベシ

第二十三條 隊機關長、隊附、司令部附、臨時乘組等トシテ乘艦中ノ准士官以上ニ在リテハ其ノ官氏名ヲ、實務練習ノ少尉候補生及下士官及兵ニ在リテハ乘艦ノ理由、官職階員數ヲ左例ニ依リ備考欄ニ記註スベシ

例 一、某潜水隊機關長 海軍中佐 某 乘艦中

例 二、實務練習ノ爲少尉候補生五名 乘艦中

例 三、定員外下士官二名 兵五名 乘艦中

第三節 機關日誌及機關運轉記錄毎日ノ部

第二十四條 毎四時間視風向、視風速並ニ海潮流ノ方向及速力ハ左ノ例ニ依リ視風速ハ米毎秒、海

達

四八三

0564

潮流ハ節ヲ單位トシ記入スルモノトス

艦首ヨリ……………3 ↓……………左舷正横ヨリ……………2 →

艦尾ヨリ……………1 ↑……………右舷正横ヨリ……………4 ←

左舷艦首ヨリ……………5 ↘……………左舷艦尾ヨリ……………3 ↗

右舷艦首ヨリ……………4 ↙……………右舷艦尾ヨリ……………2 ↖

第二十五條 每一時間航程(測定儀ニ依リ測定セルモノヲ記入スルヲ例トシ已ムヲ得ザル場合ニハ

實測ニ依ルモノヲ記入シ右肩ニ×符ヲ附スルモノトス)、潜航深度、毎四時間海潮流ノ速力、海上

ノ模様、出入港時刻及吃水ハ航泊日誌ヨリ摘載スルモノトス

第二十六條 特別記事欄内ニハ戦闘諸作業ニ關スルコト、檢閲、演習、出入渠、役務變更及軍隊教

育規則ニ依リ施行シタル作業共ノ他必要ト認メタル事項ヲ記入スベシ

第二十七條 記事欄内ニハ航海直ニ於テハ主機械ノ發停、速力ノ變換、主要補助機械ノ發停等機關

ノ運轉ニ關スル事項ヲ當直時間ニ區別記入シ實施作業ハ各部ニ分チ餘白ニ記入スベシ

碇泊直ニ於テハ實施作業ヲ各部ニ區別記入スベシ

職工來艦事業ニ従事シタルトキハ其ノ工事ノ種類、著手竣工ノ日及職工ノ數等ヲ艦員ノ事業ト區

0565

別シ「工廠事業」トシテ記載スベシ

第二十八條 記事欄内ニ主機械運轉ノ緩急發停ヲ記入スルニハ左ノ略符ヲ用フルモノトス

一	杯	全進
最大戰速	最大
第一戰速	一戰
前進	強進
強速	強進
原速	原進
半速	半進
微速	微進
後進	一
強速	杯
原速	全退
半速	強退
微速	原退
		半退
		微退

第二十九條 平均吃水、視風向、視風速及海上ノ模様ハ航海シタルトキニ限り記入シ罐水ノ性狀
 (正午ニ試験シタルモノ) 及毎四時間欄内ノ記録(視風向、視風速及海上ノ模様ヲ除ク)ハ航海ヲ
 間ハズ記入スルモノトス

第四節 機關日誌動作表ノ部

第三十條 主タービン使用時數ニハ蒸氣又ハ排氣ヲ以テ之ヲ運轉セル時間ヲ、同運轉時數ニハ出港

達

0566

ヨリ機械宜シ迄ノ使用時數ヲ、罐使用時數ニハ點火ヨリ消火迄ノ時間ヲ、主内火機械（主電動機）ノ使用時數ニハ航泊ヲ間ハズ之ヲ運轉セル時間ヲ、同運轉時數ニハ航走時數ヲ記入スルモノトス
但シ三十分以上ハ一時間ト算シ未滿ハ切捨ツルモノトス

第三十一條 罐ノ状態ハ毎日正午ニ於ケル状態ヲ左ノ略符ヲ用ヒ記入スルモノトス

航走……………S 汽釀、繼火……………B 補助機械用……………A 満水……………F
閉鎖……………C 使用水準……………W 開放……………O

第三十二條 一年度累計欄内ニハ毎年十二月一日ヨリ翌年十一月三十日ニ至ル使用時數ヲ逐次累計記入スルモノトス

燃料、潤滑油及眞水表、消耗品表、航走表並ニ充放電表ノ部亦前項ニ同シ

第五節 機關日誌、燃料、潤滑油及眞水表並ニ消耗品表ノ部

第三十三條 燃料其ノ他需品ノ費額及現量ニハ演習用、公試用等ノ經理別記註ヲ行フコトナク總費額、總現量ヲ計上記入スルモノトス

潜水艦ノ自力充電用燃料費額ニハ碇泊自力充電用燃料費額ト航走充電用燃料費額（充電量、速力、時間等ヲ基礎トシ航走用燃料費額ヨリ推算分割シタルモノ）トヲ合計シタルモノヲ記入スルモノ

0567

トス

第三十四條 需品ノ品位及適否並ニ燃料、潤滑油又ハ眞水若ハ蒸溜水ノ搭載ノ便宜等ニ關スル記事欄内ニハ領收品ノ品位ヲ評定シ若シ不良ノモノアルトキハ其ノ品名、領收年月日、供給番號及交付廳名ヲ記入シ又燃料、潤滑油又ハ眞水若ハ蒸溜水ノ搭載若ハ供給ノ便否又ハ補給等ノ設備ニ關シ所見アルトキハ詳細ニ記述スベシ

第六節 機關日誌航走表ノ部

第三十五條 航走表(甲)ノ各欄ハ艦艇ノ航走セル都度日誌中毎日ノ部等ヨリ拔萃統計ノ上記錄スベシ

第三十六條 機關日誌(甲)ノ航走表(乙)ハ航走中大凡四時間以上回轉數ノ略整定セル場合ニ付記入スルモノニシテ一晝夜ニ二回以上回轉整定セル場合ニ於テハ回轉數同一ニシテ風、潮流、海上ノ模様等略等シキモノハ之ヲ合計又ハ平均シテ記入シ不同ナレバ比較的參考ノ價値多キモノヲ採ルモノトス但シ速力試驗、高速力運轉等比較的參考トスルニ足ルベキ航走成績ハ回轉整定四時間ニ滿タザル場合ト雖モ運轉ノ種類毎ニ之ヲ記入スルヲ例トス

機關日誌(乙)ノ航走表(乙)ハ航走中内火機械ニ在リテハ大凡二時間以上、電動機ニ在リテハ

達

四八七

0568

大凡三十分間以上同轉數ノ略整定セル場合ニ付記入スベシ但シ速力試験、燃料費額試験、編隊運轉又ハ主蓄電池試験等ヲ實施シタル場合ニハ其ノ都度記入スルヲ例トス

第三十七條 編隊航行中ハ二番艦以下ノ各艦艇ハ同轉ノ整定セザル場合多シト雖モ大凡四時間以上編隊速力ニ變化ナクシテ其ノ航走成績參考トスルニ足ルベキモノアルトキハ航走時間中ノ平均毎分同轉數ヲ整定同轉數ト看做シ航走表(乙)ニ其ノ成績ヲ記入スルモノトス

第三十八條 航走表(乙)中航路欄内ニハ同轉整定間艦艇ノ航行場所ヲ簡單ニ記載スルモノトス

第三十九條 航走表(乙)中燃料ノ欄ニハ同轉整定間ノ實際費額ニ付記入スルモノニシテ毎時毎馬力ノ燃料費額ハ主機械ノミノ發生馬力ニ付算出スルモノトス

第四十條 航走表(乙)中一晝夜ノ要量欄内ニハ同轉整定間ニ消費セル實際費額ニ付一晝夜間ノ要量ヲ算出記入スルモノトス

第七節 機關日誌機關摘要ノ部

第四十一條 各摘要欄内ニハ検査記錄中ヨリ當月間ニ於ケル主ナル作業ヲ摘録スルモノニシテ修理ヲ要スルモノ又ハ修理中ノモノハ其ノ著手及竣工豫定期日ヲ現狀欄内ニ併記スルモノトス

第四十二條 工廠又ハ修理工場等ニヨリ行ハレタル作業ヲ記載シタルトキハ其ノ終尾ニ(何工廠)

0569

又ハ(何工場)ノ如ク附記スルモノトス
第四十三條 本摘要ニ掲記セシ記事ニシテ艦船機關來歴簿ニ轉記シタルモノハ朱字ヲ以テ「來」符
ヲ附スベシ

第八節 機關日誌備考表ノ部

第四十四條 故障缺損表ニハ重大ナル故障缺損ノミナラズ運轉ノ停止其ノ他機關ノ効力ニ影響ヲ及
ボシタル總テノ事項ヲ簡明ニ記シ實驗成績表欄ニハ實驗施行年月日、目的、實施方法、其ノ成果
及所見ヲ摘録スルモノトス
機關附屬物、補用品換裝表欄ニハ當月間ニ換裝シタルモノヲ各部ニ分テ記入スルモノトス
尙「切取リ」部ハ直接海軍工機學校又ハ海軍潜水學校ニ送付スベシ

第九節 機關日誌(乙) 附屬主蓄電池記錄ノ部

第四十五條 主蓄電池記錄ハ電池取扱上必要ナル諸事項ヲ左ノ各號ニ依リ記錄スルモノトス

一 主蓄電池總檢電表

主蓄電池總檢電ノ都度其ノ成績ヲ記錄スルト共ニ線圖ヲ作製スルモノトス

二 標示電器檢電表

達

四八九

0570

毎日午前八時及必要ノ都度標示電器ニ就キ検測記録スルヲ例トス
 充放電中ナル場合ハ記事欄ニ其ノ旨ヲ記入シ充放電電流其ノ他必要ナル事項ヲ記註スルモノトス

三 主蓄電池充電表

充電ノ都度記録スルモノトス但シ線圖中標示電器ニ關スルモノハ適當ナル電器ニ就キ檢測點示スルモノトス

四 主蓄電池通風試験成績線圖

通風試験ヲ行ヒタル都度作成スルモノトス

五 主蓄電池補液表

補液ノ都度記註スルモノトス

第十節 機關日誌現狀摘要表ノ部

第四十六條 本表ニハ機關日誌(甲)ニ在リテハ主機械、罐、船體其ノ他ニ區分シ、同(乙)ニ在リテハ主内火機械、主電動機、主蓄電池、補助機械、船體、其ノ他ニ區別シ當月末ニ於ケル之等ノ全力發揮差支入有無、差支アルトキハ其ノ理由ノ大要及之ガ修理等ニ關シ現ニ執リツツアル方針

0571

手段ノ要領（工廠等ノ修理ヲ要スベキモノハ之ニ關スル手續進行ノ現状等ヲモ附記ス）、竣工豫想年月日等竝ニ所見（驅逐隊、潜水隊、海防隊、水雷隊、掃海隊、驅潛隊ノ司令艦艇ニハ同隊内各艦艇ノ各部ノ狀況ヲ綜合比較シ特殊實狀ニ付彼此較覈シ得ル如キ所見ヲ附ス）ヲ記入シ其ノ他ハ左ノ各號ニ依リ記入スルモノトス

一 現状ノ儘ニテ堪ヘ得ベキ見込ノ最大力量欄ニハ艦艇、特務艦艇機關使用限度標準表記載ノ主機械發生力量ヲ發揮シ得ルモノハ之ヲ記シ機關ノ現状ガ所定力量ノ發揮困難ト認メラルル場合ニハ見込最大力量ヲ記入スルモノトス

運送艦ノ如ク吃水ノ變化大ナル艦ニ在リテハ同左速力欄ニ滿載狀態ノ外輕荷狀態（例ヘハ $\frac{1}{5}$ 載荷狀態）ノモノヲ附記スルヲ例トス

二 入渠ノ際ハ入渠記事トシテ左ノ二項ヲ記入スルモノトス

排水後成ルベク速ニ艦艇外底ノ最汚穢セル箇所ニ於テ一米平方ノ面積ヲ選定シ之ニ附著叢生セル貝殻及海草等ヲ剝落計量シタル重量（匁）及該表面ノ概位

艦艇外底及推進軸ノ塗裝法及使用塗料ノ種類竝ニ前回外底塗替後ノ經過日數

三 施行中又ハ未著手ノ訓令工事及重要ナル通牒工事事項ヲ其ノ訓令、通牒番號及著手又ハ竣工

達

達

豫定年月日ト共ニ記入スルモノトス

附 則

本達ハ昭和十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

(参照諸例則卷三、三八五頁)

達第二百十九號

工作月報別冊ノ通改正ス

但シ別冊ハ要スル向ヘ配付ス

昭和十八年九月七日

海 軍 大 臣 嶋 田 繁 太 郎

附 則

本達ハ昭和十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ従前ノ工作月報ハ在庫品ノ存スル限り之ヲ訂正シ
使用スルコトヲ得

四九二

0573

達第二百二十號

工作月報及記註心得左ノ通改正ス

昭和十八年九月七日

海軍大臣 嶋田繁太郎

工作月報及記註心得

第一章 取扱心得

第一條 工作月報ハ艦艇ニ備ヘ艦内工作ニ關スル事項ヲ記録シ他日ノ參考及考證ニ資スベキモノトス但シ艦艇中工業員ノ定員ナキモノニ對シテハ之ヲ適用セズ

第二條 工作月報ノ記註ハ艦艇乗員始メテ任命セラレシトキヨリ始メ艦艇籍ヨリ除カルル迄之ヲ繼續スルモノトシ豫備艦艇ニシテ工業員ノ定員ヲ置カレザル場合ニハ之ヲ記註セザルコトヲ得

第三條 工作月報ハ毎月月頭ヨリ月末迄ヲ一期トシ記註スルモノトス但シ直接海軍大臣ニ進達スルモノニ在リテハ六月ヲ一期トシ記註スルモノトス

第四條 艦長(司令)ハ工作月報二通(五月及十一月ニハ三通)ヲ調整シ毎月五日以内ニ一通ヲ所屬長官ニ、一通ヲ^六五月五日及十二月五日以内ニ直接海軍大臣ニ進達スベシ艦隊及警備府ハ之ヲ共

達

四九三

0574

ノ艦艇ノ本籍鎮守府ニ移牒スルモノトス

第五條 工作月報ノ保存期間ハ艦艇ニ在リテハ二年、鎮守府及海軍省ニ在リテハ五年トシ爾後之ヲ燒却スルモノトス

第六條 前諸條ノ規定ハ特務艦、特設航空母艦、特設水上機母艦、特設水雷母艦及特設潜水母艦ニ之ヲ準用ス

第二章 記註心得

第七條 役務及工業部員編制表ノ記註ニ關シテハ機關日誌、機關月報、機關月報摘要取扱及記註心得第十九條乃至第二十三條規程ヲ準用ス

第八條 工作件數表ハ左ノ各號ニ依リ記註スルモノトス

- 一 請求件數ハ各科ノ修理請求件數(工作廳、工作艦等ニ請求ノモノヲ含ム)全部ヲ計上ス
- 二 工數ハ一名六時間ノ作業ヲ以テ一トス但シ三時間以下ハ二分ノ一、三時間ヲ超ヘタルトキハ一トス
- 三 一人平均工數ハ實際工作ニ從事セシ延人員ヲ以テ總工數ヲ除シタルモノトシ工數單位ハ小數一位ニ止ム

0575

四 一年度累計ハ毎年十二月一日ヨリ翌年十一月三十日ニ至ル毎月ノ合計ヲ累計シタルモノトス
使用時數表、工作材料費額及現量欄亦前項ニ同シ

五 諸訓練欄ニハ修理工作以外ノ諸訓練、教練、點檢、行軍等ニ對スルモノヲ、整理欄ニハ諸整理作業ニ對スルモノヲ、管理欄ニハ倉庫事務、需品材料受込等ニ對スルモノヲ計上ス

第九條 使用時數表ハ左ノ各號ニ依リ記入スルモノトス

一 使用時數ハ作業中ノ時間トス但シ三十分以上ハ一時間トシ共レ以下ハ三十分ト算ス
二 工作機械器具ニ基以上ヲ有スルモノノ使用時數ハ其ノ延使用時數トス

第十條 整理摘要表ニハ工作機械器具ノ能力ニ影響ヲ及ボスベキ故障欠損事項ノ修理及檢査等ニ關シ簡明ニ記シ機關附屬物ノ換裝ヲ行ヒタルトキハ其ノ旨ヲ所置欄ニ記入スルモノトス

第十一條 重要工作其ノ他參考事項ニハ主要ナル艦内工作又ハ將來參考ト爲ルベキ艦内工作ヲ施行シタルトキ之ヲ記載スルモノトシ潜水事故アリタルトキハ其ノ種類、狀況(天候、海上ノ模様、氣溫等ヲ附記ス)程度、原因及處置ノ概要等ヲ備考餘白ニ記入スルモノトス

第十二條 整理摘要表及重要工作其ノ他參考事項「切取リ」部ハ直接海軍工作學校ニ送付スベシ
附 則

達

四九五

0576

達

本達ハ昭和十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

(参照諸例則卷三、三九五頁)

四九六

0577

達第二百二十一號

燃料油及潤滑油試驗法中左ノ通改正ス

昭和十八年九月八日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第十號凝固點測定法中現行ノモノヲ第一法トシ第二法ヲ左ノ如ク加フ

第二法（最高凝固點測定法）

試油ハ測定前必ズ冷却シテ完全ニ凝固セシメタル後之ヲ加温シテ各個別ニ攝氏三〇度、四〇度、五〇度、六〇度、七〇度及八〇度ソ各温度ニ達セシメ各三十分間同温度ニ保持シタル後夫夫各温度別試油ニ付第一法ニ依リ測定シ其ノ最高温度ヲ以テ該試油ノ凝固點トス

達

四九七

0578

達第二百二十二號

海軍徵備船舶船員給與規則中左ノ通改正ス

昭和十八年九月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第十三條ノ二ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第十三條ノ三ニ依リ被服物品ヲ給與ヲ受クル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條ノ三 前條ノ規定ニ該當スル者ニハ第五表ノ三ノ範圍内ニ於テ被服物品ヲ給與スルコトヲ得但シ遭難服裝手當ヲ受クル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條ノ四 前二條ニ依ル遭難服裝手當又ハ被服物品ハ遭難者初メテ本邦港灣ニ到着シタルトキ該港灣ヲ所管警備區トスル鎮守府又ハ警備府所在地ノ海軍經理部又ハ海軍軍需部ニ於テ之ヲ支給スルコトヲ得

海軍經理部長又ハ海軍軍需部長前項ノ手當又ハ被服物品ヲ給與シタルトキハ遭難者ノ所轄長又ハ其ノ殘務整理班ノ所屬鎮守府所在地ノ海軍經理部長又ハ海軍軍需部長ニ其ノ旨通報スルモノトス第十三條ノ五 所轄長又ハ海軍經理部長若ハ海軍軍需部長遭難服裝手當又ハ被服物品ヲ給與シタル

達

四九

0579

トキハ遭難服裝手當ニ在リテハ海軍省經理局長ニ、被服物品ニ在リテハ海軍省軍需局長ニ之ヲ通
報スルモノトス

第二十一條ノ二 前三條ノ規定ヲ適用スル場合ノ乙船員ノ報酬又ハ給料ニ付テハ第十六條第二項ノ
規定ヲ準用スルモノトス

第五表ノ二備考第一號及第二號ヲ左ノ如ク改ム

所轄長ハ海軍戰時給與規則施行細則第十七條第四項ノ規定ニ拘ラズ本表ノ金額以內ニ於テ其ノ必
要額ヲ支給ス

第五表ノ二ノ次ニ左ノ一表ヲ加フ

第五表ノ三				被服物品		制式	記事
品名	區分	部内限奏任 待遇者	部内限判任 待遇者	其ノ他	船員服裝規程ノ定 ムル所ニ依ル		
正帽		一	一			甲號及乙號ノ 區分アルモノ ハ定數以內ニ 於テ適宜給與 スルコトヲ得	
冬衣袴		二	二	二			
夏衣袴		二	二	二			
外套	套	一	一	一			

達

靴	手	カ	白	白	半	夏	冬	夏	冬	船	作	防	雨
下	袋	ラ	シ	半	靴	袴	袴	襦	襦	内	業	暑	衣
		一	ヤ	靴	靴	下	下	袴	袴	帽	服	衣	袴
三	一	三	ツ	靴	靴	下	下	袴	袴	帽	服	衣	袴
三		三											
三													
普通ノ制式			白ズツク表短靴	黒靴製短靴	夏袴下ニ準ズ	袴下ニ準ズ	夏襦袴ニ準ズ	下士官、軍樂兵	下士官、軍樂兵	略帽ニ準ズ	ズ	乙ニ準ズ	下士官防暑衣袴

五〇一

0581

達

五〇二

- 備考
- 一 本表ノ被服物品ノ代價ハ海軍省軍需局長ノ定ムル所ニ依ル
 - 二 本表ノ範圍内ニ於テ給與スル被服物品ノ代價ノ合計額ハ第五表ノ二ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

達第二百二十三號

機關効程要表記註取扱規程中左ノ通改正ス

昭和十八年九月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第一條 各艦艇ニハ機關ノ効程ヲ明確ナラシムル爲メ機關効程要表ヲ備ヘ之ニ各要素ヲ記入シ置クモノトス

第三條中「タルビン」ヲ「タービン」ニ、「第一種煉炭」ヲ「一號煉炭」ニ、「第一種塊炭」ヲ「一號塊炭」ニ、「第二種煉炭」ヲ「二號煉炭」ニ、「第二種塊炭」ヲ「二號塊炭」ニ、「第三種塊炭」ヲ「三號塊炭」ニ改ム

第四條ノ二 航行中ノ機關待機用燃料增加率ヲ明確ナラシムル爲メガ航走ノ機會アル毎ニ効程原表及効程原表記録ニ其ノ成績ヲ記註シ置クモノトス

0582

達

待機種別	現用 速度	指定速度						全 力
		16	18	20	22	24	26	
即時 待機	12	0	3	7	10	15	15	20
	14	0	2	5	7	10	10	15
	16	/	0	4	5	8	8	12
	18	/	/	0	2	4	4	6
	20	/	/	/	1.5	2	2	4
十五分(二十分)間待機	12	0	2	5	7	9	9	12
	14	0	1	3	5	7	7	9
	16	/	0	2	3	5	5	7
	18	/	/	0	2	3	3	5
	20	/	/	/	0	2	2	3
三十分間待機	12	0	1	3	4	5	5	6
	14	0	0	2	3	4	4	5
	16	/	0	1	2	3	3	4
	18	/	/	0	1	2	2	3
	20	/	/	/	0	1	1	2

第五條中「タービン」ヲ「タービン」ニ改ム
第五條第七號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

八 効程曲線圖(甲)ニハ第四條ノ二ノ成績ヨリ得タル各種待機ニ對スル燃料增加率ヲ現用速度
對待機指定速度ニ區別シ左例ノ如ク表記スルヲ例トス

五〇三

0583

第八條 航續距離ハ左ノ各號ニ依リ算定ス

- 一 燃料費額ハ主機械及航海ニ直接必要ナル補助機械（發電機ヲ含ム）ニ要スル費額ノ全量トス
- 二 航續距離算定ノ使用燃料ハ次表ニ依ルモノトス

燃料種別	使用可能量(F)	記事
罐及内火機械用重油	滿載量ノ九五%	内火補助機械用ヲ含ム
内火機械用輕油	滿載量ノ九五%	
罐用石炭	滿載量ノ九〇%	
内火機械用各重力「タンク」及分離「タンク」内重油		蒸氣機關裝備ノ艦艇ヲ除ク
補助罐用燃料	F中ニ算入セズ	
艦載艇用燃料		
由式空氣壓縮ポンプ用燃料		

三 算式左ノ如シ

第一式
$$R = \frac{F}{C} \times V \times 24 \quad (\text{水上艦艇用})$$

0584

第一式 $R = \frac{F}{C_1 + C_2} \times V \times 24$ (潜水艦用)

R ハ航績距離(哩)

F ハ實際使用シ得ル燃料満載量

V ハ速度(節)

C_1 ハ効程曲線圖(甲)ヨリ得タル一晝夜基準燃料費額

C_2 ハ効程曲線圖(丙)ヨリ得タル一晝夜基準燃料費額

但シ潜水艦ノ C_1 、 C_2 中ニハ水上航走中補助裝置ニ對シ主蓄電池ヨリ電力ヲ供給シタル場合
ノ補充充電ニ要スル燃料費額ヲ含ム

第十六條 本規程中軍艦ニ對スル規定ハ特務艦、特設軍艦及特設特務艦ニ之ヲ準用ス

附 則

本達ハ昭和十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

(參照 諸例則卷三、三九七頁)

達

五〇五

0585

達第二百二十四號

工具養成所教員規程中左ノ通改正ス

昭和十八年九月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第五條及第六條中「海軍航空本部長」ノ下ニ「海軍施設本部長」ヲ加フ

第十二條表備考第四號中「海軍工務規則」ノ下ニ「海軍施設工務規則」ヲ加ヘ同表第六號中「及

航空機學」ヲ「航空機學、土木工學、建築工學、機械工學及電氣工學」ニ改ム

第十九條表備考第六號及第二十六條表備考第六號中「航空機學」ノ下ニ「土木工學、建築工學、

機械工學」ヲ加フ

(諸例則卷三、五六四ノ九五頁參照)

達第二百二十五號

港用品備品定額表中左ノ通改正ス

昭和十八年九月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

達

五〇七

0586

達

五〇八

同	追加	區別	類別	番號	品名	數稱	摘	要	記	事
同	備品		五	三四	遮光幕	枚	防窓用			
一二				四九	泡沫發生器	組	防火用			

○正誤

本年達第二百二十二號ノ頁「四四九」ハ「四九九」ノ誤

④

0587

達第二百二十五號ノ二

獨國ヨリ讓渡ヲ受ケタル潜水艦一隻ニ左ノ通命名ス

昭和十八年九月十六日

海軍大臣 嶋田繁太郎

呂號第五百潜水艦

達

五〇八ノ二

0588

達第二百二十六號

海軍勤勞顯功章令施行規則第九條ノ規定ニ依ル地方表彰ヲ受クベキ者ヲ經營傭人又ハ左ニ掲グル事業ノ現業ニ従事スル各廳勤務ノ雇員、傭人、工員及傭員トス

昭和十七年達第三百三十七號及同年達第三百三十八號ハ之ヲ廢止ス

昭和十八年九月十七日

海軍大臣 嶋田繁太郎

- 一 土木、建築
- 二 艦船兵器ノ造修、試験及検査
- 三 燃料ノ製造
- 四 治療品ノ製造及加工
- 五 被服及糧食ノ製造及加工（修補ヲ含ム）
- 六 印刷
- 七 艦船ノ繫留、出入渠及錨地轉換、海上救難
- 八 軍需品ノ積卸、輸送

達

五〇九

0589

九 探炭
十 探油

達

10

0590

達第二百二十七號

經營需品試驗規格中左ノ通改正ス

昭和十八年九月二十二日

海軍大臣 嶋田繁太郎

水雷長主管ノ消耗品ノ部ニ左ノ規格ヲ加フ、
機雷長主管
四號精密機械油

本礦油ハ縱舵機潤滑用トシテ適當ナルモノニシテ左ノ各號ニ適合スルヲ要ス

- 一、反 應 (試驗法第三號) 中 性
- 二、比 重 (試驗法第四號丙第一法) ○・九二以下
- 三、粘 度 (試驗法第六號甲) 攝氏一〇度 六〇〇秒以下
攝氏三〇度 一五〇秒以上
- 四、凝 固 點 (試驗法第一〇號) 攝氏零下四〇度以下
- 五、腐 蝕 (試驗法第一五號) 腐蝕セザルヲ要ス
- 六、揮 發 分 (試驗法第一七號) 攝氏一〇〇度 五時間ニテ○・二%以下

達

五二二

0591

- 七、鹼化 價(試驗法第二〇號) 〇・三—〇・五
- 八、酸 價(試驗法第二一號) 〇・二以下

四號内部礦油

本礦油ハ魚雷潤滑用トシテ適當ナルモノニシテ左ノ各號ニ適合スルヲ要ス

- 一、反 應(試驗法第三號) 中 性
- 二、比 重(試驗法第四號丙第一法) 〇・九〇以下
- 三、引 火 點(試驗法第五號乙) 攝氏二〇〇度以上
- 四、粘 度(試驗法第六號丙) 華氏二二〇度 九〇秒—一〇五秒
- 五、粘 度 指 數(試驗法第六號丙) 九〇以上
- 六、凝 固 點(試驗法第一〇號) 攝氏零下一五度以下
- 七、炭 化 分(試驗法第一八號) 一・〇以下
- 八、鹼 化 價(試驗法第二〇號) 一・五以下
- 九、酸 價(試驗法第二二號) 〇・一以下

四號タリス

0532

本ターリスハ主トシテ脂肪酸ノカルシウム石鹼ト精製礦油トヨリ成リ均一ナル組成ヲ有シ航空機
機體魚雷用主機械若クハ一般機械ノ球軸承、コロ軸承其ノ他ノ滑動部ノ潤滑用トシテ適當ナルモ
ノニシテ左ノ各號ニ適合スルヲ要ス

- | | |
|--------------------|---------------------------------|
| 一、外 觀 | 軟膏狀 |
| 二、稠 度 (試驗法第三〇號) | 攝氏二五度 二五〇 ± 二〇
攝氏零下二〇度 二〇〇以上 |
| 三、滴 點 (試驗法第三二號) | 攝氏八五度以上 |
| 四、礦 油 分 (試驗法第三二號) | 八〇%以上 |
| | 引火點 攝氏一六〇度以上 |
| | 粘度攝氏三〇度 一三〇秒以上 |
| 五、遊離アルカリ (試驗法第三三號) | 〇・二%以下 |
| 六、遊離脂肪酸 (試驗法第三三號) | 〇・五%以下 |
| 七、灰 分 (試驗法第三三號) | 二・五%以下 |
| 八、水 分 (試驗法第二號) | 二%以下 |

達

五二三

0593

九、夾 雜 物 (試験法第三二號)

〇・一%以下

一〇、腐 蝕 (試験法第一五號)

腐蝕セザルヲ要ス

一一、安 定 度 (試験法第三三號)

攝氏一〇〇度—一〇五度ニ於テ三時間加熱セ
ル場合變色或ハ油ト石鹼トノ分離ヲ起サザル
コトヲ要ス

一號メタノール

本メタノールハ無色透明ニシテ沈澱物ナク且左ノ各號ニ適合スルモノタルベシ

一、純 度 (比重ニ依リ決定ス)

重量ニテ九九・〇%以上

二、比 重 (試験法第四號第一法丙)

〇・七九六乃至〇・七九九

三、反 應 (試験法第三號)

中 性

本品ノ容器ハ鋼鐵製ニシテメタノールヲ封入セル年月ヲ明記シ密閉スルヲ
要ス

二號メタノール

本メタノールハ無色透明ニシテ沈澱物ナク且左ノ各號ニ適合スルモノタルベシ

0594

達

一、純	度 (比重ニ依リ決定ス)	重量ニテ九〇%以上
二、比	重 (試験法第四號第一法丙)	〇・八二以下
三、反	應 (試験法第三號)	中性又ハ微酸性
飛行長主管ノ消耗品ノ部ニ左ノ規格ヲ加フ		
一號精密機械油		
本礦油ハ航空計器潤滑用トシテ適當ナルモノニシテ左ノ各號ニ適合スルヲ要ス		
一、反	應 (試験法第三號)	中 性
二、比	重 (試験法第四號第一法)	〇・九二以下
三、粘	度 (試験法第六號甲)	攝氏一〇度 一四五秒以下 攝氏三〇度 六〇秒以上
四、凝	固 點 (試験法第一〇號)	攝氏零下五〇度以下
五、腐	蝕 (試験法第一五號)	腐蝕セザルヲ要ス
六、揮	發 分 (試験法第一七號)	攝氏一〇〇度五時間ニテ〇・三%以下
七、鹼	化 價 (試験法第二〇號)	〇・二以下

0595

五一五

八、酸 價(試験法第二二號)

○・二以下

二號精密機械油

本礦油ハ航空計器潤滑用トシテ適當ナルモノニシテ左ノ各號ニ適合スルヲ要ス

一、反 應(試験法第三號法)

中性

二、比 重(試験法第四號丙第一法)

○・九二以下

三、粘 度(試験法第六號甲)

攝氏一〇度 二五〇秒以下
攝氏三〇度 九〇秒以上

四、凝 固 點(試験法第一〇號)

攝氏零下四五度以下

五、腐 蝕(試験法第一五號)

腐蝕セザルヲ要ス

六、揮 發 分(試験法第一七號)

攝氏一〇〇度五時間ニテ○・三%以下

七、鹼 化 價(試験法第二〇號)

○・二以下

八、酸 價(試験法第二二號)

○・一以下

三號精密機械油

本礦油ハ磁石發電機潤滑用トシテ適當ナルモノニシテ左ノ各號ニ適合スルヲ要ス

0596

達

一、反	應 (試験法第三號)	中 性
二、比	重 (試験法第四號丙第一法)	○・九二以下
三、粘	度 (試験法第六號甲)	攝氏一〇度 六〇〇秒以下 攝氏三〇度 一五〇秒以上 攝氏五〇度 六五秒以上 攝氏零下四〇度以下 腐蝕セザルヲ要ス
四、凝 固	點 (試験法第一〇號)	攝氏一〇〇度五時間ニテ○・二%以下
五、腐 蝕	蝕 (試験法第一五號)	○・二以下
六、揮 發	分 (試験法第一七號)	○・二以下
七、鹼 化	價 (試験法第二〇號)	○・二以下
八、酸	價 (試験法第二一號)	○・二以下
五號精密機械油		
本礦油ハ縦舵機潤滑用トシテ適當ナルモノニシテ左ノ各號ニ適合スルヲ要ス		
一、反	應 (試験法第三號)	中 性
二、比	重 (試験法第四號丙第一法)	○・九二以下

五二七

0597